



俳諧  
落  
は  
象



一息方梅室

接蒙一石唯

送唯

平野左近藏本



川橋や柳の下に小さき山丹後  
新道の松やふる家なる松や新路満  
かたのこころのこころも後集が後駕  
柳を折り時よかけらあり中橋橋宇多  
松をさよふたに松松よをこころ若狭  
秋の夜は月あきまゝに降るあり今  
くさ者一帯水の袖洗ありこころユル用

城殿をとりて体心あり松を子の月降満  
松をさよふたに松松よをこころ若狭  
俣山まをせに松松よをこころ初良山  
降雲れ松よ入るやせこの橋カ道緒カ  
くさ者一帯水の袖洗ありこころユル用  
橋をさよふたに松松よをこころ若狭  
人の月あきまゝに松松よをこころ若狭



言るや、伊達の大名戸押明る後也

船ひよつとあつてもあつてもあつても

世をわたりてあつてもあつてもあつても

おれおれおれおれおれおれおれおれ

昔のいそぐれいそぐれいそぐれいそぐれ

少少ののりよのせり離るる

あつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつても

あつてもあつてもあつてもあつても

奥山ハ山乃匂ハ暑サコトヲ申五嶋

旅人ハ野田敷之好字ニシテ水

鳥籠の〜〜〜すら〜〜〜やまの森井在

梅之書よの生ら向し舟のちきり子さ統

と奇〜人々裕ト通リ〜〜〜

十甫記

水

梅橋

六文

町屋

一戸

水

水

水

油

人來れりやす〜とおもひぬらき 初見  
 花哉 花哉  
 花をくゝる湯中〜 山味  
 花在 山味  
 句花のつらき花をさきくは楳花  
 のよはまや一帯印花に橋の上如水  
 はくらくもき橋の中よひまけり 有  
 舟のるに伴ふ志くゆき 野梅  
 谷川の岩あり〜子見

夜に燈をみかぬありあか〜る花 葉  
 花ありや梅の伴にわらわらき 京  
 花 山味  
 花〜人を行ぬの庄の花 花  
 花 山味  
 花のし〜〜〜花 花  
 花 山味  
 花 山味  
 花 山味  
 花 山味

日ハ申時古梅ありの松屋又度 和歌 車山  
と水やはらけり其の音

深き水のきりぎりす 是れ可<sup>たり</sup>免  
春のしづも月も右なる夕涼し耳足  
さうきしよちいものりの糸箱花  
あふもをさしあふけり急やうすぬ水  
まら秋一りりりり 西丘の地尾抱

暮をさびしむすふ山のゆき いせ 妻母  
茅の束のほろむらや春を待 たご 新す  
人こころする道ゆきや雲の峰 休窓  
神のすれ眼もすまき いせ 松子 髭元  
新やあや隣とくいの妻はうら 山味 花友  
松をわかれ松路をうら いせ 名めえ 宗巴  
梅のより新八橋の物すま いせ 八橋



しんやうの物をしんやの三の朝 市友  
二先くさくさ人新橋人新 菊竹  
昔もやととととととととととと 东山  
今もやととととととととととと 如風  
あきとととととととととととと 陽正  
しんやの物をしんやの三の朝 市友

右 卷 軸

卷 頭

この外にやととととととととととと 周南

る 巻 外 扱 茶

この外にやととととととととととと 宗巴  
るや昔くさくさくさくさくさくさ 兼水  
今もやとととととととととととと 漱石

きのあまのそらや  
 文の初ら月りて多守秋の如  
 たりとるる色をちるや山橋  
 根の信山を母も十はる事  
 長谷をさるるせみさるはすは  
 りら初の申る言をさるる  
 秋風あー大星ひらら山のは  
 巨十

あらまの山をさるる  
 つらまの山をさるる  
 年へんまの山をさるる  
 常へんまの山をさるる  
 年へんまの山をさるる  
 夕照の山をさるる  
 序をさるる

結 駕  
 学 伯  
 吐 雪  
 井 左  
 琴 糸  
 巨 十  
 五 嵩  
 里 川  
 宇 多  
 七 妻  
 七 子  
 七 文  
 七 枝  
 七 枝

わが身よはもよほるるまへに 隅田川 英唱  
あひまはるはあつとて 二京 老  
まをるる傘のしなれに 呂山  
庭をわけて十屋のまはす 草垣  
あをわけてさるる 柳裕  
あやもはるるまへに 新涼  
しりしりまよるるまへに 一幸

あつとてまよるるまへに 魯堂  
三つれはあつとて 柳山  
秋もまよるるまへに 井山  
うたをまよるるまへに 井山  
あつとてまよるるまへに 井山  
初はまよるるまへに 全  
まよるるまへに 全  
まよるるまへに 全

新くうのしつちかむらじゆと  
眉之の板折き了烟代也  
年ししてかえさるゝや秋の序  
さし白の早さを慶あはれ時を日か  
新泉 麦水 松尾

ついでにふたつとふたつと  
かたがはのしつちかむらじゆと  
かたがはのしつちかむらじゆと  
かたがはのしつちかむらじゆと

新くうのしつちかむらじゆと  
かたがはのしつちかむらじゆと

松尾

あつたに——  
田風

しるしのいふよあまぬけの干か全  
酒を飲むもをた越るも梅の意六  
多座のふは是味をすけや且取る方  
つものありつるはくはき世かぬ水  
梅るはきや梅の意も氣持す持  
新秋や花のさき梅の意も梅同

園のふは梅もつるはくはき世かぬ水  
さき梅の意も梅の意も梅同  
あつたに——  
とく——  
きり——  
あつたに——  
きり——  
あつたに——  
きり——

さくばの縁をくさるゝ田舎が梅片  
ふと見えぬかこ持少竹くさ  
肘杖のくはく思さく花さる  
月さるるり松並くさ  
寝る用のさるさくけさく文二  
かさく海られ物く礼くさ  
かさく松の内松嶽

あつらひ新牛とくさよとの宿来昔  
さくはぬりさくつじ棲る中一宿

るのくさ

海すらしさくさくさく  
さくさくさくさく  
梅ののさくさくさく  
さくのさくさくさく



吾も終つて去らざる秋の夜に於て  
宿の心植ふおこるうらなふ  
さしとてしづめの吾もあはれ  
花のまらやあはれもあはれ  
ニおこるおこるもあはれ  
何の事もあはれもあはれ  
一さしとておこるもあはれ

らかたもあはれもあはれ  
夕暮をわが秋の夜に  
けしきもあはれもあはれ  
さしとておこるもあはれ  
さしとておこるもあはれ  
さしとておこるもあはれ  
さしとておこるもあはれ  
さしとておこるもあはれ  
さしとておこるもあはれ  
さしとておこるもあはれ



かゝるはたはたのやうに何の事もなく  
おひらきしつゝも後あやのありしつゝ  
よもせし後進をあるまじき事か有るや  
二千余の爲申の屏風としはれし今を  
世の事しつゝもゆるる。能くのく  
平一はしつゝ

人のりや人の訪さるる面ありし一極  
つらつらつやあをまの事おしし其極

わつらつらつやあをまの事おしし其極  
明知の身なれどおのれし一全  
本意のこゝろありし一極  
昔の事やあやつゝもあはれし  
と千三百の事やあやつゝも抑えらるる事  
あるはあはれし世の事やあはれし  
こゝろありし一極  
見しつゝもあはれし一極

二橋のひまゝ一蓮の花より形がたふ  
香のほのつれなまゝや 豆のま 全  
吸るるゝたきこ子 酔や 松の旧巻紙  
持出るとまゝとらゝぬ 雑草が 全  
と枝の香やすけうつゝあゝる 操も 柳室  
是のつとくよゝおれ 忍花うね 全  
妻のやゝきゝ信を 映もあゝる 抄巻

み供のまゝとらゝる 巻のまゝる 帯のたふ 不情  
舟と来りて中道のの袖とらゝる 月夜  
扇根とらゝる 空のまゝの 扇根が 全  
子供や 燈の 扇根の 梅のまゝ 田舎  
らゝのまゝ舟の 丁巻の 田舎が 一  
子あゝる 香を 起す 外す 香のまゝ  
まゝの 香のまゝ 起す 外す 香のまゝ

こゝろを〜白ひよ晴し〜  
次〜  
子孫やハ〜  
四阿あはの聖息目あ〜  
美〜  
以〜  
物女も〜

花の舞り〜  
争〜  
三原物〜  
振〜  
本所刺し〜  
吟〜  
能極〜



何千やちくちくしてく歴斗色復物  
大為や 牡丹は遠く志んと出秋風朗  
あふふふふふふふふふふ 牡丹が一具  
床ふふふふふふふふふふ 牡丹  
茶古きりあふふふふふふふ 今  
池ふふふふふふふふふふ 池  
山葎や 隆ふふふふふふ 椽一肖

雨陽や 山水も来る 葎ふふふ 十又  
ほふふふふふふふふふ 葎  
坂の端もはふふふふふ 井眉  
見競ふ 葎ふふふ 葎  
あふふふふふふふふふ 葎  
峠のふふふふふふふふ 月居  
ふふふふふふふふふ 茶



柳をよみしむ 柳うきくもさあしむ 柳を  
作ししりして 柳をよむ 柳の甲柳を  
法首かきく 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
ちるをよむ 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
おろし入る 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
雪の戸や 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
子よめをよむ 柳をよむ 柳をよむ 柳を

あのをよむ 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
つちをよむ 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
おのよむ 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
つちをよむ 柳をよむ 柳をよむ 柳を  
りしをよむ 柳をよむ 柳をよむ 柳を

およむ 柳を  
柳をよむ 柳をよむ





あさるふ縁てのりくしるるまき茶也  
たししてつしハをち作のまき 全  
良袋として赤行加減也其の風平休  
ふくろくち子を切らしり本下客  
帰る下りおまをすも思ひりく大梅  
おまをすも思ひりく大梅 全  
あさるふ縁てのりくしるるまき茶也

梅書あはは春〜し〜のまを後月  
山の如く屋をもるふ〜はあ〜のまを 全  
里ふ〜あま〜屋まを〜してま梅書 全  
おまをすも思ひりく大梅 全  
山の如く屋をもるふ〜はあ〜のまを 全  
あさるふ縁てのりくしるるまき茶也 全  
ま梅書あはは春〜し〜のまを後月

夫くちい、あひまゝにわが家い、  
 子―たく、たの、たの、たの、たの、  
 茶、茶、茶、茶、茶、茶、茶、茶、  
 き、き、き、き、き、き、き、き、  
 魚、魚、魚、魚、魚、魚、魚、魚、  
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 錦、錦、錦、錦、錦、錦、錦、錦、  
 錦、錦、錦、錦、錦、錦、錦、錦、

本、本、本、本、本、本、本、本、  
 本、本、本、本、本、本、本、本、  
 本、本、本、本、本、本、本、本、

・本、本、本、本、本、本、本、本、  
 本、本、本、本、本、本、本、本、

三秀流

本、本、本、本、本、本、本、本、  
 本、本、本、本、本、本、本、本、

流千枝

流、流、流、流、流、流、流、流、  
 流、流、流、流、流、流、流、流、

あちこち

張

美るるや船をいせしとて名所巧  
ひらくるといふにたれや春の湖  
そよぐりて多きものりとの雪佛か  
ちりしよたれりそちんむとん  
あやよとてあつてこの川海干が  
美らるるやたれぬとてとては  
美らるるやたれぬとてとては

このあちこちとていふは  
たれぬとてとての具たれとて  
かゝるきこの場とていふは  
すゝまの鏡の池やたのこ路南人  
十有餘りたるやいふは角力友  
七十人  
ゆゑにたれをたれとていふは  
ちやうどとてとてとてとてとて

もよほのうへ久思ふ夜やき契言新秋  
ゆるのこけうゆる山を〜河津に 舟を  
りもしらとけ終すはる 舟を舟 亦木  
ワの舟や初ももと地さく 眞阿な色 久歳  
の多す〜 喜〜とそれもさ 帆 舟 舟  
わ市に歩いあふ〜舟りぬ年の暮 十角  
さうらう地こ日 向歩行つての暮 舟地  
舟を見て人の歌うやう地のむ

後 吹きて吹つ〜舟の 舟の 舟に  
ツ管物の吹あ〜舟 列 舟 舟  
早くか〜して舟あ〜舟の 舟  
帆のま〜舟の舟よゆ〜舟の 舟  
舟よ〜舟を休むや 舟を舟  
舟を 舟〜して舟の舟を 舟  
角口連し〜舟の 舟年 舟  
舟上の舟〜舟 舟田 舟

日華をもちて一日りくくし母を代  
水垢をきかきしや地りこ  
きしや地りきかきしや地りこ  
きしや地りきかきしや地りこ  
木鉄をきかきしや地りこ  
眼のきかきしや地りこ  
夕きやふ先よせのけり本取  
人並よあしき星々神後

吹出たる物よ是の藤の子か  
市へ出るといひのりかき本立  
神をきかきしや地りこ  
大空やふまゐるまの具えぬ  
若くしきかきしや地りこ  
日ありきのち田のちか店のは  
りありきのちかきしや地りこ  
きしや地りきかきしや地りこ

先人の著る説をてんて其著るは 坊家

一三保十一度子集よ著

字為 年 秋 下 漸 之 あり 人 の よる 卓 池

植 之 子 の つく ま川 下 あり 子 の 日 哉 全

移 之 子 の つく ま川 下 あり 子 の 日 哉 全

後 も し い 一 枝 を 根 子 忘 れ け る 全

海 之 子 の つく ま川 下 あり 子 の 日 哉 全

猫 の 書 之 考 之 考 之 考 之 考 之 考 全

まら 鳥 根 の 一 考 子 考 之 陸 舟 全

枝 考 之 一 考 子 考 之 陸 舟 全

柳 考 之 一 考 子 考 之 陸 舟 全

若 竹 や 根 の 枝 子 考 之 陸 舟 全

大 の 考 之 一 考 子 考 之 陸 舟 全

子 考 之 一 考 子 考 之 陸 舟 全

新 考 之 一 考 子 考 之 陸 舟 全

新 考 之 一 考 子 考 之 陸 舟 全

又くこゝにさしきりておわするの事  
山次平一引つれりてと云  
七條や一葉のこゝれも已遠  
彩粧子のまゝも一葉や遠き  
日謀くさるるも一葉の菟  
ぐく一葉のこゝれも一葉の福  
ニのこゝれも一葉のさき  
是れしぬのこゝれも一葉

泉池

今

護物

茶丸

石分

鳳朗

今

巴

ねここゝれも一葉のさき  
初めのもゝれも一葉のさき  
まゝのさきも一葉のさき  
梅り者や一葉のさき  
奇つたれも一葉のさき  
えもものさきも一葉のさき  
又まゝのさきも一葉のさき  
名入る解し縁の子まゝ  
又まゝのさきも一葉のさき

文奉

今

巴

文奉

今

今

巴

文奉

夕車風やいかに響きも樹のこぼれ  
音<sup>音</sup> ~~音~~

吹くやちりやうせむく風音の聲を  
玉尺

風打の〜〜襦袢〜〜子あめ  
巴南

蓄を〜〜き〜〜筆<sup>筆</sup>音<sup>音</sup>打きく  
作有

子<sup>子</sup>送<sup>送</sup>こ<sup>こ</sup>せ<sup>せ</sup>子<sup>子</sup>九<sup>九</sup>の<sup>の</sup>筆<sup>筆</sup>又<sup>又</sup>こ<sup>こ</sup>あ  
巴南

又<sup>又</sup>と<sup>と</sup>云<sup>云</sup>日<sup>日</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>筆<sup>筆</sup>の<sup>の</sup>も  
来<sup>来</sup>竹

録<sup>録</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>結<sup>結</sup>の<sup>の</sup>ま  
卓池

日<sup>日</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>一<sup>一</sup>巻<sup>巻</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
卓池

ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>き<sup>き</sup>を<sup>を</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>月<sup>月</sup>  
風韻

野<sup>野</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>年<sup>年</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
卓池

雲<sup>雲</sup>を<sup>を</sup>万<sup>万</sup>葉<sup>葉</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>く<sup>く</sup>  
巴南

候<sup>候</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
文平

利<sup>利</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
水竹

時<sup>時</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>幸<sup>幸</sup>持<sup>持</sup>強<sup>強</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>心<sup>心</sup>  
卓池

夕<sup>夕</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>家<sup>家</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>や<sup>や</sup>浦<sup>浦</sup>の<sup>の</sup>秋<sup>秋</sup>  
一具

時<sup>時</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>子<sup>子</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>案<sup>案</sup>定<sup>定</sup>の<sup>の</sup>心<sup>心</sup>  
護物



舟・カヌヤ 美濃國の小狩野や 蒼乳  
よのつらよもある。舟名の火燧コタツや 去の  
元陽の戸建もあや細可詠ん  
入舟にこくくぬ屋やおのるる  
全 全 全

草子の店開はあま千おるる

大新寺よりあまあゆるの馬廐を  
こいこいこいこい

くしこくしこくしこくしこくしこくしこく

丁巳十一年の春

湖の中 金葉はるる

鶴あまあまあまあまあまあまあまあま

山茶あまあまあまあまあまあまあまあま

るるるるるるるるるるるるるるるるるるる

まままままままままままままままままま

襟うるるる

今りるるるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるる

松林を杖<sup>えら</sup>つきぬきし思<sup>おも</sup>ひし日人  
 松たけやいほの青<sup>あお</sup>らなむせ  
 夕<sup>ゆふ</sup>ま<sup>ま</sup>やほ<sup>ほ</sup>すしん<sup>しん</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>こ  
 昔<sup>むかし</sup>の<sup>の</sup>仙<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>悔<sup>くわい</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>あ<sup>あ</sup>る  
 昔<sup>むかし</sup>の<sup>の</sup>行<sup>ゆき</sup>じ<sup>じ</sup>よ<sup>よ</sup>む<sup>む</sup>ね<sup>ね</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>空<sup>くう</sup>  
 全 全 全 全 全 全

平野左近藏本

